



# 子どもの心を耕す読書のすすめ

子どもの成長に応じた読み聞かせは、個人差もあり“読み聞かせはこうあるべきだ”と言うことは難しいものです。しかし、読み聞かせの大切さや効用について理解していれば、子どもの成長や個人差にあった本を選んで読み聞かせられるようになるのです。

子どもがお話を好み、読み聞かせをねだるようになったら“お話の主人公と喜びを共にできる感情が子どもに芽生えてきた”と言えます。そして読み聞かせやお話を聞かせることは、その発達を自然にうながしていくことになり、物語を好む心が育ち読書のための心が耕されることになるのです。

読み聞かせの効用：  
・  
・

読書意欲と読み聞かせ2

## 読書意欲をうながす読み聞かせの効用

本を読まない子どもは、本の愉しさがわからない子どもであり、本を読めない子どもは、物語の世界にひたることのできない子どもになるのです。読書への意欲をうながすためにも読み聞かせをしましょう。

1. 子どもの物語好きの心を養う。
2. 心にイメージを描く力、情景を想像する心を育てる。
3. 人の喜びや悲しみを、わがことのように喜び悲しむ心を育てる。
4. 登場人物の行動を通じて、世の中には様々な人間がいることを知る。またそのことを通して人間への愛情や登場人物への批判の眼が芽生えていく。
5. 知的な好奇心やいろいろなできごとを理解する能力が伸びる。

## さんやそう 6

この花にあうたびに「釣り舟草（ツリフネソウ）とはよく言ったもの。まさに、その草姿にマッチした名前だ。」といつも感心してしまう。山野草には一人静（ヒトリシズカ）、錨草（イカリソウ）、舞い鶴草（マイズルソウ）、羅生門かずら（ラショウモンカズラ）など、いかにも意味ありげで楽しい名前のものが多く、名前に関心を持つことで入っていける世界でもある。

さて、当のツリフネソウであるが、山すそや谷川の水際などでごく普通に見られる花である。ハウセンカの仲間種はポンとはじけて飛び散る。沢内には写真のピンクのほか黄色もあり、最近では白花も結構見つけやすいものでなくなった。

あまりの愛らしさに自宅に持ち帰って栽培をしてみ



ツリフネソウ

だが、あまりの旺盛な繁殖力に恐れをなし、掘り捨ててしまった。「いつかこの花を水割りの中に浮かべて飲んで見たい」などと思うのである。

（沢内村 大石 信夫氏 提供）

# 虹の ひろば

沢内村せんだん保育所

所長 佐藤 りき子

## さつまいもの栽培を通して

ふれあい農園は、昨年度まで山の中の畑でしたが、クマの出没のため今年度は園舎周辺の休耕田に植えた。土がかたく少し苦労だったし、人でも足りず草取りも思うようにいかず収穫が心配されたが大きいさつまいもが収穫された。

とれたさつまいもは、そのものの味を味わうため、子どもたちはホットプレートで焼いて食べた。また、毎日の給食にさつまいもの天ぷらや甘煮などに入れ、副菜やおやつに利用した。市販のものは食べないのに、自分で手をかけたものはおいしそうに食べる子もいた。

やきいも会には、卒園児を含む近くにある2つの小学校の1年生を招待して、もみがらで焼き、ホクホクホカホカのいもを食べながらおしゃべりもはずみ、招く側も招かれる側もとても楽しい交流ができた。やきいも会の後、寄せられた小学生からの感想(おれいの手紙)は、苗から育て



おいしいサツマイモに  
笑顔満開です。

たことや買ったものよりおいしかったという内容のものが多かった。保護者からは、子どもたちが持ち帰りたいもを使って料理をし、子どもの反応や自分の感想を寄せてくれた。保育所でのさつまいもの栽培について、家庭でも関心を持つことにより、いろんな意味で相乗効果があったと言えるのではないかと思う。

“子どもたちの生きる力を食に関する活動を通して、また地域の方との世代間交流を通して、五感をはたらかせながら体得させたい”との願いから始めた農園活動も今年で11年目、その成果と感動を子どもたち、家族、職員で共有できたことは大きな喜びである。

これからも、農園活動への取り組みをいろいろ工夫しながら、子どもたちの食育ができたと思う。

「でっかいなあ」と大喜びする子どもたちの声に励まされながら……。

### 園児たちは・・・？

- \* 大きいいもがあつてすごかった。(D男)
- \* ちゃんとちゃんといっしょにでっかいいもがほれて、おもしろかった。(M子)
- \* おいもを抜く時、手に土がついて「あ～！」と思った。おもしろかった。(B男)

### 小学生は・・・？

- \* おいもがおいしかったよ。おいもくれてありがとう。おいもが大きくておいしかったよ。せんだんほいくしょのが、かってきたのよりおいしかったよ。あそぶのもたのしかったよ。てつぼうがいちばんたのしかったよ。(1年生 M男)

### 家庭では・・・？

- \* 保育所からのさつまいもをポテトチップスや、いもごはんにして食べました。子どもたちは、ポテトチップスの方を喜んで食べていました。カリッとしておいしくいただきました。(Y子の)



# 子どもびびっとの裏側見せます！



小学生の子どもたちを対象に、遊びを通して新聞に親しみ、表現力や国語力を自然に身につけてもらおうと、びびっと研究会が主催している会です。

年に7回の子どもびびっとクラブを、わたし達はとても楽しみにしています。なにしろ、元気の良い子ども達とじかに触れ合える絶好の機会だからです。ただ、毎回何をねらいにしてどんなことをさせようか、とても悩みます。今回は、どのようにして子どもびびっとクラブの準備が進められているのか、その舞台裏を少しご紹介しようと思います。

ある日の企画会議。

「今度の子どもびびっとでは、**新聞の構成**に気づかせたいね。どうしたらいいだろう・・・??？」

「新聞を記事ごとに切り取って、**パズル**にしたらおもしろいんじゃない!？」  
「それはなかなかいいアイデアだね。」  
「早速つくってみよう。」

「切るだけじゃ、紙が薄くて遊びづらいよね。**裏に台紙**を張ったらいいのかなあ。」  
「台紙を貼る時のノリは、スティックノリの方が乾いた時ベコベコなくていいみたい。」



試行錯誤の上、『びびっとパズル』が誕生しました。

「一つ一つのピースをあまり細かくすると、低学年の子には難しすぎるよね。」  
「高学年の子には、これくらいのピースでだいじょうぶかなあ。」



## びびっと (PPT) ホームページ

びびっと研究会設立以来、念願だった



びびっと (PPT)研究会とは?



子どもびびっとクラブ



新聞各種講習会



びよびよびびっとクラブ

## 参加した子ども達の反応は・・・

「『これはどこだゲーム』は勝ってやると思い新聞に目を通した。でも一回目は苦戦。全部とけないうちに終わった。二回目はチームプレイ。ああだ、こうだといながら全部問題をとけたときはうれしかった。

きょうもとても楽しかった。『ぴびっとビンゴ』で二回しかできなかった。少しくやしかったです。ガスの話は少し分からなかったので、家に帰ってからじっくり読んでみたいです。

きょうぴびっとに来たのは初めてでした。どんなことをするのかあとと思っていました。一番楽しかったことは「これはどこだゲーム」です。探しているうちに、誰よりも速く探したいなあと思いました。

- 1 新聞に関する用語や新聞名などを使ってビンゴするゲームです。
- 2 新聞の中から見出しや罫線、写真、イラストなどをピックアップし、それが新聞のどこにあったかを捜すゲームです。

このような感想を参考に

- ・ 難しいことをやさしく
- ・ やさしいことを深く
- ・ 深いことをおもしろく

この三つを基本にすえて毎回内容  
考えています。

平成 15 年度の『子どもぴびっとクラブ』は、来年 1 月の一回を残すのみとなりましたが毎回初めて参加したお子さんもすんなり溶け込めるような内容にしています。どうぞふるってご参加ください。

『子どもぴびっとクラブ』に関するご質問は、ぴびっと研究会まで。気軽にどうぞ。

[www.npo2000.net/~ppt](http://www.npo2000.net/~ppt)

ホームページができました。遊びにきてね！

チルダは、シフトを押しながら入力してね。



ぴびっと相談室



会報ぴびっと



新聞を読んで今を語る会  
(通称・まうずりい)

Q: 意見記事を書きたいのですが心がまえについて教えてください。

(北上市 小学校PTA会員)

論説や提言、コラムや投書などを、まとめて意見記事といいます。ニュース記事とちがって「私はこう思う」「こうした方がよい」というような主張を前面に押し出した記事といえます。論説や提言は、広報委員会以外の人に書いてもらう場合もあります。この場合「どのようなことを、どんな立場で書いてほしいか」をはっきりお願いします。

意見記事は、新聞の持つもう一つの「オピニオン・リーダー」としての一面であるとも考えられます。

## 新聞倫理綱領

- 第1 新聞の自由
- 第2 報道・評論の限界
- 第3 評論の態度
- 第4 公正
- 第5 寛容
- 第6 指導・責任・誤り
- 第7 品格

## 意見記事を書く場合

知っておきたいことは、新聞倫理綱領です。新聞が公器としての役割を果たすためにも、公平、中立性が要求されます。

入賞おめでとう OMEDETOU 入賞おめでとう omedetou オメデトウ

2003(平成15)年度岩手県小中学校**新聞コンクール結果**から抜粋

### 小学校・学校新聞の部

最優秀賞 「あすなる」 久慈市立枝成沢小

### 中学校・学校新聞の部

最優秀賞 「大嶺」 浄法寺町立大嶺中

### 中学校・学級新聞ファックス新聞の部

優良賞「友愛」北上市立上野中学校1年D組

### 小学校個人新聞の部

- 2年 優秀賞 北上市立煤孫小 昆野莉奈
- 2年 優秀賞 北上市立煤孫小 及川 唯
- 2年 優良賞 北上市立煤孫小 加藤春花
- 4年 優良賞 北上市立和賀東小 八重樫比華里

### 中学校個人新聞の部

- 1年 優秀賞 北上市立上野中 藤原 咲
- 1年 優良賞 北上市立上野中 小原由紀香
- 1年 優良賞 北上市立上野中 千田理恵
- 1年 優良賞 北上市立上野中 遠藤美沙

### PTA 広報の部

最優秀賞 PTA みるまえ 盛岡市立見前小

### 小学校スクラップの部

- 優秀賞 北上市立煤孫小2年 長谷川奈々子
- 優良賞 北上市立煤孫小2年 酒井 涼美
- 優良賞 北上市立黒沢尻北小5年 高橋彩野

### 中学校スクラップの部

- 優秀賞 北上市立上野中1年 地下菜津美
- 優良賞 北上市立上野中1年 伊藤 駿
- 優良賞 北上市立上野中1年 高橋 海
- 優良賞 北上市立上野中1年 高橋美紗貴
- 優良賞 北上市立上野中1年 千田 理恵
- 優良賞 北上市立上野中1年 佐々木理恵
- 優良賞 北上市立上野中1年 澤田 愛
- 優良賞 北上市立上野中1年 渡辺あゆ美

## 新聞の中身とは違いますが…

伊藤典子

新聞づくりになんとなくかかわるようになって2年半。自然と新聞の見方も変わってきました。最近はやたらと見出しに目がいきます。

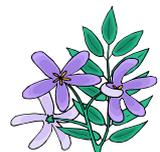
私たちの仲間の一人に、とてもセンスのいい人がいます。彼女の担当したページは、いつもすっきりしていて、かわいく、同じ新聞づくりに関わる者としてとてもうらやましい存在なのです。先日、どうやっていつもそんな素敵なページづくりをしているのか尋ねました。すると、彼女は一般紙を参考しているというのです。そうか、そうだったか。

実は私も前々から新聞のあちこちに出てくるコーナー見出しが気になって仕方なかったのです。ごくごく小さなコーナーごとの

見出しなのですが、一つ一つが内容にふさわしく、しかも新聞という白黒の世界にきっちり主張しているのです。

これは、そのコーナー見出しを紹介するしかない・・・ということで、下にいっぱい並べてみました。

まうすりいでは、普段、新聞記事の中身についてあれこれ話し合っていますが、今回はちょっと趣向をかえて、新聞の見出しにこだわってみました。たまに、こんな風に視点を変えて新聞を見るのもおもしろいかもしれません。



朝日新聞より

新聞を読んで今を語る会(通称:まうすりい)は、複数の新聞を読み比べ、社会情勢から身近な出来事までいろいろな事柄について、楽しくディスカッションしながら、おたがいに刺激あって自分を高めていくことを願いスタートした会である。ぴぴっと研究会では、平成13年4月より「まうすりい」を開始。平成15年12月現在34回を数える。

毎月第2火曜日 10時から12時まで北上市黒沢尻北公民館を会場に開催。

会員募集中!どなたでも大歓迎!!

# 初雪に想ふ

皆さん、休みの日は何をしてお過ごし  
されますか？フリースや家でのんびり、  
イヤ、休みの日だからこそ家の掃除を  
思い切り…などなどいろいろあると思  
いますが、私は主人と出かけるドライブ。

新緑萌える春、深緑の夏、紅葉の秋、  
そして葉を落とし雪の衣装を纏う冬。  
山々に囲まれた北上で、変わり行く木々  
を見、四季それぞれの風を感じる素敵な  
時間。時には行き先でおいしいものに出  
会い、幸せを感じることも。

特にお気に入りの秋。そちちがあざやかに染まる時季。里の草紅葉が  
始まると、青空と暖かい日差しに誘われ  
るまま、普段はドライブ嫌いの子ども達も  
参加して紅葉狩りに出かける。

今年も、昨年時期を逸して落ち葉となつて  
いた早池峰山のリベンジからとなった紅  
葉行脚。青空の下、岩がゴロゴロとした  
登山道、息を切らしながら登る。沢に出た  
ところ、後ろを振り返ると、キラキラ輝く  
沢の水と色とりどりの木々。あまりの美し  
さ思わず出るため息。残念ながら四〇分ほ

ど登ったところで下山する。そして足腰を鍛えて  
また来年来ることを、子どもと約束する。

色づき始めたばかりの夏油、今が盛りと燃え盛  
る松川渓谷と、冬の訪れを告げる初雪が残る  
八幡平山頂、そして葉を落とした木々の中  
で、終わり行く秋を惜しむかのようにつ  
いに真赤に染まる鳴子峡のふもみ。今  
年は、一月あまりの間に思い切り秋を満喫  
。鳴子峡ではお兄ちゃんに手をひかれて  
息も絶え絶えに長い階段を登っているとき  
に、いいね。しあわせだね」と見知らぬ人  
に言われ、恥

かしいような嬉しいようなおまけもつ  
いた。(親ばか)

朝夕の寒さも日増しに強くなり、遠く  
の山々も白く見えるようになった。里が  
雪化粧するのももうじき。私の楽しみも、  
しばしの休みとなる。春の日差しに誘わ  
れるまで。



このコーナーは会員が最近感じたこと、出来事など交代で担当します。

## 新聞まめちしき

新聞の写真 その14

写真が紙面に掲載されるようになったのは日露戦争の頃である。この頃までの新聞は画家の書いた絵を木版に彫刻して印刷したものである。

陸軍参謀本部地図彫刻師堀健吉が、網目写真凸版を開発して以来、新聞の付録・雑誌には、写真が使われたものの、技術上の難点から、なかなか新聞に写真版を使うまでには至らなかった。

明治37年1月、「報知新聞」が写真の掲載を始めた。

(太陽コレクション 新聞かわら版より)

## 編集後記

我が家の裏は自然豊かで、暖かい時期は小学生の自然観察・幼稚園の散歩・そしてザリガニ取りの穴場である。また、つがいのカモやキジが住んでおり、地震の前には気をつけると警告してくれた。

最近、宅地の工事準備で下草が刈られ木が切られている。カモたちはどこかへ行ってしまった。時代の流れだろうか？なんだか寂しい。

ご意見・ご感想をおまちしております

ぴぴっと(PPT)研究会

024-0012

岩手県北上市常盤台 1-14-12

TEL・Fax 0197-64-0758

E-mail: agi@titan.ocn.ne.jp

ホームページ: www.npo2000.net/~ppt/